

## 兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録

宇野宏樹

ヒメシロシタバ *Catocala napioides* は、北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、カシワを食樹とすることが知られている（岸田ほか，2011）。本種の西日本での分布は局地的であり、兵庫県における本種の産地は、美方郡香美町村岡区大笹ハチ北高原・宍粟市波賀町引原の2カ所しか知られていなかった（阪上ほか，2017）。筆者は記録が無いと思われる新温泉町で本種を採集したので報告したい。



図 ヒメシロシタバ（兵庫県美方郡新温泉町産）。

1ex. (図), 兵庫県美方郡新温泉町芦屋 城山園地. 10. VII. 2021. 筆者採集保管.

ライトトラップに飛来した個体を採集した。付近の環境は、日本海を見下ろせる海辺の高台であった。末筆ながら、報告を勧めてくださった八木剛氏および採集に同行してくださった安岡拓郎氏に厚くお礼申し上げる。

### ○参考文献

岸田泰則・柳田慶浩・清野昭夫・石塚勝己，2011. シタバガ亜科. 岸田康則（編），日本産蛾類標準図鑑 2: 244-264. 学研教育出版，東京.

阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人，2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2): 25-36.

(Hiroki UNO 兵庫県西宮市)

## 但馬高原植物園に於けるクジャクチョウの記録

広畑政巳・糸数幸高

白水（2006）によると本種の現在知られている確実な分布の西南限は岐阜・滋賀両県境の伊吹山となっている。また、三重県下では発見の事例が多く、過去に島根県、長崎県、鹿児島県などで数例の記録があることが記されている。兵庫県では神戸市岡本付近で2頭採集したという古い記録があるがそれ以降は本種の報告はない。

筆者の一人糸数は2021年9月9日に兵庫県美方郡香美町村岡区和池の但馬高原植物園にてオタカラコウの花に吸蜜に来た本種を撮影している。同じ個体かどうかは不明であるが、前々日の9月7日にも本種が同園で確認されているようである。

分布西限の生息地から飛来したのか、何らかの事情によって運ばれてきたものかは定かではないが明らかに本種であり、県下においては珍しい記録なので報告した。

### ○参考文献

広畑政巳・近藤伸一，2007. 兵庫県の蝶. 331pp.

白水 隆，2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学習研究社，東京. 336pp.

(Masami HIROHATA 兵庫昆虫同好会)

(Yukitaka ITOKAZU 兵庫県加古川市)



図 オタカラコウに吸蜜に来たクジャクチョウ：糸数幸高撮影。

## 三木市と明石市でマツヘリカメムシを確認

柴田 剛

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann, 1910 (カメムシ目：ヘリカメムシ科) は、北米大陸西部原産の外来のカメムシで2008年に東京都で外来種として発見された。現在は21都府県での確認記録（岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、新潟県、茨城県、栃



図 マツヘリカメムシ, 三木市福井, 2021年10月28日.

木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 山梨県, 長野県, 石川県, 大阪府, 兵庫県, 鳥取県, 福岡県, 熊本県)と2県でのインターネット情報(愛知県, 岐阜県)があり(鶴ほか, 2020), 西日本に分布を拡大しつつあるといわれている。

兵庫県内の記録は, 初記録が2015年の神戸市灘区(伊藤, 2015)で, その後, 三田市(片岡ほか, 2019; 池田・八木, 2021)と宝塚市(宇野, 2021)から記録されている。このたび三木市と明石市で撮影・採集したので, ここに報告する。

【確認情報】

採集・撮影: 三木市福井(三木山森林公園のトイレの外壁)

確認年月日: 2021年10月28日

確認個体: 2exs.

採集・撮影: 明石市明石公園(明石公園内の自販機)

確認年月日: 2021年11月21日

確認個体: 1ex.

○参考文献

池田大・八木剛, 2021. 有馬富士公園における一般参加型虫とりプログラム「あさムシ!」による昆虫相調査. 人と自然 Humans and Nature 31: appendix, <https://www.hitohaku.jp/publication/r-bulletin.html> (2021年11月閲覧)

伊藤誠人, 2015. 兵庫県神戸市で採集されたマツヘリカメムシ. きべりはむし 38(1): 26

片岡義方・秋山重信・金子留美子・桜井正臣・竹川應仁西岡 稔・平田登志子・山本由紀子・芳川雅美, 有馬富士公園の昆虫相 -2018年の昆虫調査-. きべりはむし 42(1): 52-73

鶴智之・大生唯統・田村昭夫, 2020. 外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* の鳥取県からの初記録と分布の拡大状況に関する考察. 鳥取県立博物館研究報告 Bulletin of the Tottori Prefectural Museum 57: 37-43

宇野宏樹, 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相 —2010年～2020年の昆虫の記録—. きべりはむし 44(1): 9-25

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

ハナジロクチバを兵庫県香美町で採集

高橋輝男

兵庫県美方郡香美町村岡区大笹(鉢伏東高原, 標高約1,000 m)で, 9月11日23時半頃にライトトラップに飛来したハナジロクチバ(図)を採集したので報告する。

ハナジロクチバはヤガ科シタバガ亜科のガでその分布はインドからオーストラリア, 南太平洋地域に渡って広範囲に分布する。日本では福岡県で採集された1例のみが知られていた(井上ほか, 1982)が, ネットを検索すると高知県, 和歌山県, 広島市, 九州地方や愛知県名古屋市でも採集されている。

本種の名前は下唇鬚第一節の下面が白いことに由来する。食草はカエデ科クスノハカエデおよびムクロジ科ムクロジである。

本種は日本には定着しておらず, 得られるガは遇産蛾である。本県のシタバガ亜科に関する報告(高島, 2004)でも本種の名前すら挙げられておらず, その後の本県の記録も見出せなかった。

○参考文献

井上 寛・杉 繁郎・黒子浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑, 講談社。

高島 昭, 2004. 兵庫県のシタバガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・30, きべりはむし, 31(2): 44-55.

(Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町)



図 香美町産ハナジロクチバ(開帳41mm).